第82回役員会　議事要録

日　時：平成28年7月25日(月)14:00～15：00
会　場：大学本館　Ｅ-７０３会議室
出席者：石原理事長、近藤副理事長、利島理事、片山理事、梶原理事、吉永理事
（オブザーバー）中野(昌)監事、中野(利)監事、漆原副学長、柳井副学長

議　案
１　教職員の功績表彰について

報　告
１　国際環境工学部及び国際環境工学研究科と北九州工業専門学校との協定の締結について
２　参議院選挙期日前投票所の学内開設について
３　熊本地震のボランティア活動について

議案１　教職員の功績表彰について

＜質疑応答＞なし

【議長】提案のとおり承認してよろしいか。
【委員】異議なし

報告１　国際環境工学部及び国際環境工学研究科と北九州工業専門学校との協定の締結について

＜質疑応答＞
●北九州高専から本学へ入学する人数はどのくらいか。
○かなり少ない。平成26年度に専攻科から1名入学している。これまでの推移を見ると、専攻科から他大学の大学院に行っている。高専の教員が他大学の出身が多いため、研究室とのつながりがある事から他大学に行くものと思われる。
○本学も同様の流れを作らなければならない。
○博士後期課程を修了した学生が各高専等に教員として採用されると、これから10年、20年先にはつながりができ、優秀な学生を確保することができる。
●奨学金を給付するというインセンティブを与えて学生を募集するのはどうか。
○効果はあると思う。
○地元の高校から地元の大学へ、そして地元企業に就職する、そして企業等が中心となって奨学金を創設する。メリットとして、高専は5年＋2年という教育システムであり、大学院まで含めると合計で9年間になるが、早期卒業で8年間に短縮できる。地元にいる優秀な学生が、経済格差によりなかなか進学できない学生に対して支援することにより、高専から一貫した教育でモノづくりを継承してもらう仕組みを早期に作りたいと高専と議論している。
●奨学金については、市に申し入れていただきたい。
○これまで高専から研究室に配属された学生は、県内に就職を希望する学生が多い。しかし、大学院を修了すると、地元での研究開発職が少ないため、都市部に就職してしまう。最近は地元企業においても研究開発職を募集している企業もある。
○高専の卒業生の地元就職率は10%以下であるため、ここを高専との連携の中で改善していきたいと考えている。
○事務局から企画調整局に申し入れておく。
●卒業年数を短縮できるとはどういう事か。
○高専在学中に本学の科目を早期履修させ、前倒しで単位を取得させ、早期卒業させる予定である。
●実施時期が未定とあるが。
○基本的には平成31年度にカリキュラムを改編する予定であり、早めに実施すべきと考えている。
○国際環境工学部では、数年前から6年間一貫教育で考えており、学部及び大学院を早期卒業できるよう、優秀な学生は学部で大学院の科目を履修できる制度を設けている。
●高専の学生は今の制度ではできないのか。

○本学の学部生は可能であるが、高専の学生はできないため、今後制度を見直していきたい。
●単位互換の交流の中で、学部編入の場合は単位を読み替えるにあたり、専門科目は単位の読み替えがしやすいと思うが、基盤教育科目については今後検討いただきたい。特に、北方・ひびきの連携科目は必修になっているため、編入の場合どう取り扱うのか。
○編入学については、既に読み替えの仕組みが構築されている。

報告２　参議院選挙期日前投票所の学内開設について

＜質疑応答＞なし

報告３　熊本地震のボランティア活動について＜ボランティア活動を行った学生たちによる報告＞

＜質疑応答＞
●資材班というのは、送られてくる物資を必要なところに届けるのが仕事か。
○現地に向かうボランティアに必要な、スコップやごみ袋等の資材を配布するのが業務である。
○先ほど報告があった中で、外国人への発信という事については、これから取り組んでいきたい。9月から10月にかけ、創立70周年記念事業の一環としてアジア未来会議を北九州市と本学で開催することとなっている。当日は約300名の外国人が参加予定であるため、外国人対応のための学生ボランティアを募集したところ、約50名の応募があった。現在、ボランティアの配置を検討しており、事前オリエンテーションも実施を検討しているが、単なるチェックインのお手伝いや道案内だけでなく、危機管理の点も視野に入れて具体的に検討していきたい。
●今回の地震は余震もかなりの回数起きたが、現地にいる間、どう感じたか。
○ボランティアセンターで活動していたため、感触はさほどなかった。その後、スマートフォンに地震速報が来たことで地震を認識していた。しかし、避難所の方々は敏感になっており、少しの揺れも感じていたという話を聞きている。
○現地で宿泊している際、余震が来たが、現地の学生は敏感に反応していた。